

経営者および経営者候補者に読んでほしい書籍

2020.3.30 杉田英樹

書籍選定にあたって:大企業向け/深い話をおもしろく(井上ひさし)/まったく読む気がしない難解なものは避ける/要約することにあまり意味がなく、読み込むべきもの/その本から興味が派生的に広がるもの

分類	NO	書名・著者・出版年・出版社	概要
思考と倫理	1	『ユング心理学と仏教』 河合隼雄著、河合俊雄編、2010年(1999年原著)、岩波現代文庫	論理一辺倒ではとらえきれない認識がある。日本人が避けがたい東洋的(仏教的)な発想を米国人向けに解説したもの。人の心を言葉で理解することと、言葉を頼らないことの2つの考え方がわかる。
	2	『新編 東洋的な見方』 鈴木大拙著、上田閑照編、1997年(著作は1960年前後)、岩波文庫	禅を英語で説いた偉人の本。上記書籍と併せて読むと、仏教(禅)の精神が分かる。「編者あとがき」→「(3部構成の)第3部」から読むとなじみやすい。
	3	『責任と判断』 ハンナ・アーレント、ジェローム・コーン編、中山元訳、2016年(2003年原著)、ちくま学芸文庫	ナチスのアイヒマン裁判を通じて、正義・道徳を論理的に語っている。自分の道徳心とはどのようなものか、どのように行動を規制しているのかを痛切に考えさせられる。
	4	『言葉によって—哲学的スナップショット』 ジャック・デリダ、林好雄 他訳、2001年(1999年原著)、ちくま学芸文庫	正義・道徳のラジカルな発想。デリダの著作はあまりに難解だが、インタビュー録なので読みやすい。突き詰めて考えるとはどういうことかに触れられる。
	5	『サピエンス全史(上・下)』 ユヴァル・ノア・ハラリ、柴田裕之訳ジャック・デリダ 2016年(2011年原著)、河出書房新社	言語獲得による認知革命、さらには農業革命による組織化など、壮大なスケールで現代の位置づけを論じたもの。人間とは何かを否が応でも考えさせる。
思考	6	『寝ながら学べる構造主義』 内田樹、2002年、文春新書	ソシュール/フーコー/バルト/レヴィ=ストロース/ラカンをサンプルに、構造主義、ポスト構造主義を平易に解説。考えるということのメカニズムを知ることができる。
	7	『科学革命の構造』 トーマス・クーン、中山茂訳、1971年(1962年原著)、みすず書房	「パラダイム」の存在を指摘した古典。私たちは何かの通念的体系に囚われた状態で考えていることを知る。
	8	『ファスト&スロー(上) あなたの意思はどのように決まるか?』 ダニエル・カーネマン、村井章子訳、2014年(2011年原著)、早川書房	ノーベル経済学賞受賞者による行動経済学の入門書。ファストな直感、スローな論理の違いで、人間の心理をひもとく。
倫理	9	『嫌われる勇気—自己啓発の源流「アドラー」の教え』 岸見一郎・古賀 史健、2013年、ダイヤモンド社	ご存じ大ベストセラー。他人にとらわれずに、自分の足で歩いていくとはどういうことかを説く。対話型の文章の「クセが強い」のがやや難点。
	10	『塩狩峠』 三浦綾子、1973年、新潮文庫	実話をもとにして自己犠牲の極致を描いた小説。凡人には到底到達できない、正義の理念型をイメージするのによい。
	11	『夜と霧(新版)』 ヴィクトール・E・フランクル、池田 香代子訳、2002年(1977年原著)、みすず書房	極限状態に置かれた時、人の心はどのように働くか。その時、「愛」とはどのようなものなのか。誰かとともに生きることを考えさせられる。
経営	12	『良い戦略、悪い戦略』 リチャード・P・ルメルト、村井章子訳 2012年(2011年原著)、日本経済新聞出版社	戦略とそうでないものの区別をはっきりつけているので、「あなたの記述はこの本のこの『悪い』事例と同じ状態に陥っている」と指摘しやすい。実務的に有用な書籍。
	13	『株式会社』 ジョン・ミクルスウェイト他、鈴木泰雄訳 2006年(2003年原著)、ランダムハウス講談社	会社という組織がどのような性格を帯びているのかを認識するのによい。歴史的な出現背景や、それを支える法律を知ること、会社の可能性と限界を知ることができる。